

馬頭琴ばとうきんの音色がモンゴルの風を運ぶ

表町公園で初めて音楽コンサートが行なわれる

モンゴル国やその文化を紹介しようと、町国際交流協会（館山齋会長）主催で九月四日、札幌在住の音楽家、嵯峨治彦さんなどを招き、「馬頭琴と喉歌のどうたのコンサート」が表町公園野外ステージで行なわれました。町内在住で獣医師のモンゴル出身、アバラゼデさんから国の紹介があり、続いて、町内の四人の小学生が同国の童話「スーホの白い馬」を馬頭琴の音色が響くなか朗読しました。その後、嵯峨さんなどが馬頭琴でモンゴルの民謡を演奏、ひとりで二つの音で歌う喉歌を披露しました。また会場には、市原泰雄さん（表町）が所有する遊牧民の移動式住居「ゲル」も展示され、来場者は異国情緒に浸っていました。



4人の児童による朗読

アバラさんが国の紹介

モンゴル馬頭琴&喉歌の紹介

移動式住居「ゲル」

嵯峨さん（右）と田中孝子さんによる音楽コンサート（写真上）

いしづえ 厚真の礎を築いた 父母の労苦を敬（うやま）う

9月10日、町敬老会が総合福祉センターで行われ、80歳以上の敬老者539人の長寿と、結婚50年を迎えた24組の金婚を祝いました。

藤原町長から「皆さんの苦勞と力で築いていただいた厚真町を、磨きをかけ次世代に引き継いでいきたい」とあいさつがあり、参加者にねぎらいのことばを添えて記念品が渡されていました。



「北国の春」を歌う茶木清治さん（京町・95歳）



黒毛和種第2部門
（未經産）

1等1席
池川勝利さん（宇隆）
出陳「しげこ」

黒毛和種第5部門
（経産）

1等1席
高山昇さん（上厚真）
出陳「まきかつ」

北海道肉用牛共進会で 2頭が1等1席に輝く

ホクレンが主催する第25回北海道肉用牛共進会が9月5～6日、十勝農協連家畜共進会場（十勝管内音更町）で行なわれ、町内から3戸5頭の肉用牛が参加し優秀な成績を収めました。

黒下和種第2部門で「しげこ」を出陳した池川勝利さん（宇隆）、同5部門で「まきかつ」を出陳した高山昇さん（上厚真）がそれぞれ1等1席を、同第4部門に「くにかつ」など3頭を出陳した浅野勝善さん（宇隆）が入賞に輝き、関係者は受賞の喜びに包まれていました。

富野小学校（佐々木美恵子校長）で9月9日、不審者が学校へ侵入したと想定した「防犯訓練」が行なわれました。

苫小牧警察署員が武器を持った不審者にふんし、児童玄関から教室に侵入。署員の迫真の演技に子どもたちはひるみながらも、先生がイスを使って、子どもたちを男から遠ざげ避難させ、さすまで取り押さえました。

訓練を見守った上厚真駐在所の内橋所長が「今日の訓練は機敏でよかった。万が一の時は、今日のことを十分いかして」と話していました。

不審者の校内侵入を想定し防犯訓練



厚真中央小学校（近藤茂校長）の3年生27人が9月29日、こぶしの湯の下の敷地で交通安全の呼びかけを行いました。

総合学習で栽培したハスカップで染めたしおりに交通安全を願う気持ちを書き添えた、手作りのしおりを子どもたちが作製。

ドライバーに「安全運転をお願いします」と元気に呼びかけながら、安全運転の思いのつまったしおりを手渡していました。

手作りのしおりを渡し交通安全を呼びかけ



不測の事態に備え 迅速・適確に行動

厚真消防団と消防署厚真支署による秋季合同模擬火災訓練が九月六日、日本ホワイトファーム（株）札幌食品工場（厚和・日高啓工場長）で行なわれました。工場ポイラー室から出火延焼し、内部に数人の負傷者がいることを想定し、消火と救助の訓練を行ないました。

団署員合わせて七十二人、車両十二台が参加し、長い水路にもかかわらず、迅速・適確に行動し、本番さながらの訓練を披露していました。



工場に放水する団署員と救護に当たる女性消防団員（右上）



体と知恵を駆使し スタードームで技を競う

九月二十三日と二十四日の両日、スタードームで「胆振教育局長杯第二十回胆振親善交流ゲートボール大会」が管内九市町から二十チーム百六十人が集まり行なわれました。

日ごろ、それぞれの地域で練習した成果を發揮しようと、体と知恵を使って技を競い、また、こぶしの湯で懇親を深める交流会が行なわれるなど有意義な二日間を過ごしていました。



子どもから大人まで 出来秋を満喫

都市と農村の交流をはぐくむ、町主催のあつま遊楽農園「収穫感謝祭」が九月四日、宇隆地区の同農園で行われました。

苫小牧や札幌などから三十五世帯約八十人が参加し、共同の畑で子どもから大人まで力を合わせ野菜を収穫しました。その後、とりたての馬鈴薯のふかしもやスイートコーン、豚汁に参加者はおいしそうに舌鼓を打っていました。